

令和４年度 中町中学校 学校評価

学校教育目標

かしこく、やさしく、たくましく未来を生き抜く生徒の育成
「凡事徹底」 ～ 時を守り 場を清め 礼を正す

評価指標

A:非常に良い (達成値が4.0以上4.5未満)

B:良い (達成値が3.5以上4.0未満)

C:課題がある (達成値が3.0以上3.5未満)

D:速やかな改善が必要 (達成値が3.0未満)

| 観点 | 項目 | ト内容（取組の状況） | | | | 5：とてもそう思う | | | | 4：そう思う | | | | 2：あまりそう思わない | | | | 1：まったくそう思わ | | | | 自己評価 | | | | 課題と改善方策 | 学校関係者評価 | |
|------------------------|-----------------------|--|--|---|--|--|--|-------------------|-----|--------|-----|-----|---|--|--|----|--|---|--|------|--|----------------|--|--|--|---------|---------|--|
| | | 教職員 | | 保護者 | | 生徒 | | 今年度評価（点数は評価指標の平均） | | 達成値 | | 教職員 | | 保護者 | | 生徒 | | 評定 | | 観点評定 | | 学校評価検討委員会で出た意見 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 確かな学力の育成 | 「確かな学力」の定着（基礎・基本） | 個に応じた支援・個別指導等を充実させて、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている。 | | お子さまは、漢字の読み書きや数学の計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 | | 漢字の読み書きや数学の計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 | | 4.2 | 4.6 | 3.9 | 4.2 | A | A | ○教職員の評価指標が、ほとんどの項目において保護者や生徒よりも高くなっている。これは、各項目の内容について働きかける側が高い意識をもっていることが考えられる。数値の高低だけでなく、教職員と保護者、生徒の数値の乖離、昨年度との比較にも注意していく必要がある。 ○確かな学力の向上の「基礎・基本」については、昨年度と同等の数値であるが、生徒の数値が「3.8」から「4.2」へと大きく上昇している。今後も個に応じた支援を大切にして基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるよう授業づくりに取り組んでいきたい。 ○確かな学力の向上の「思考・判断・表現力」についても、同様な傾向である。昨年度との比較は上昇しているものの、保護者の評価指標が「3.6」と低くなっている。学習で身につけた力を、日常生活の中で生かす「活用する」ことを意識していく必要がある。 ○今年度は、教職員の学習評価の項目が「3.9」から「4.4」へと大きく評価指数が高まった。新学習指導要領の改訂から、生徒の評価について研究を進めている結果だと考える。引き続き検証を進めていきたい。 ○家庭学習の指導については、保護者の評価指標「3.5」から「3.9」と大きく高まった。今後も生徒の学力向上を目指して家庭との連携を図っていきたい。 | | | | ・通級の指導については、子どもたちの実態を適切に把握すると共に、気持ちに寄り添いながら学びを積み上げていただいた。今後もきめ細やかな支援をお願いしたい。 ・家庭学習の充実については、具体的な学習の進め方や課題について、家庭と学校が連携していくことが大切である。 ・基礎・基本の定着を図ると共に、思考力・判断力・表現力についても、子どもたちの将来の生きていく力につながるよう指導や支援をしていただければありがたい。 ・ICT機器の活用については、コロナ禍により活用が一気に進んだことがよく分かる。学校や家庭でさらに有効に活用することができるよう指導願いたい。 | | | | | | | | | | |
| | 「確かな学力」の定着（思考・判断・表現力） | 自分の考えを論理的に話したり書いたりする学習等を計画的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成に努めている。 | | お子さまは、自分の考えをわかりやすく話したり書いたりする力が身に付いている。 | | 自分の考えをわかりやすく話したり書いたりする力が身に付いている。 | | 3.9 | 4.4 | 3.6 | 3.8 | B | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語活動の充実 | 毎時間の授業展開の中に、他者との対話等の言語活動を意識的に取り入れている。 | | お子さまは、他者とのコミュニケーションを積極的に行うことができる。 | | ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を解いたりすることに積極的に取り組んでいる。 | | 4.1 | 4.3 | 3.8 | 4.1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 学習評価 | 単元の評価規準を明確にし、系統性のある評価規準を作成したりすることで、評価の客観性・信頼性を高めることに努めている。 | | 学校は、学習活動において、お子さまの努力や能力を適切に評価している。 | | 自分は授業において、自分の努力や能力を適切に評価されている。 | | 4.2 | 4.4 | 4.2 | 4.0 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 家庭学習の指導 | 「ユニバーサルデザイン」の視点に立ち、中町中の共通した授業スタイルによる、すべての生徒にとってわかりやすい授業になるように心がけている | | 学校は、生徒が自主的に学習することが出来るよう、計画的に課題を出している。 | | 家庭学習に自主的・計画的に取り組んでいる。 | | 3.8 | 4.0 | 3.9 | 3.6 | B | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ICT機器の活用 | ICT機器を積極的に活用し、効果的かつ効率的、また、生徒の学習意欲を高めるような授業作りに努めている。 | | | | タブレットなどを活用した授業は、わかりやすく楽しい。 | | 4.3 | 4.1 | | 4.4 | A | | 4.1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 豊かな心の育成 | 道徳教育（規範意識） | 社会生活を送る上で、人間としてつべき規範意識を育むよう指導している。 | | 学校は、社会のきまりやマナーなどを適切に指導している。 | | 社会のきまりやマナーなどを守って生活している。 | | 4.4 | 4.3 | 4.3 | 4.5 | A | A | どの項目についても昨年度と同等の結果となった。学校教育にICT機器が活用される機会が増え、学校や家庭で活用する機会が増えている。特に情報モラルの項目については、教職員と生徒の数値が高い。その反面、保護者の数値について、昨年度よりは上昇しているとはいえず「3.7」とも低い。生徒のタブレットや通信機器の家庭での使い方に不安を感じる保護者が多いことがうかがえる。PTAと連携をして情報モラル教育をすすめていく必要がある。 | | | | ・子どもたちの道徳心や規範意識を高めていくことはとても大切である。あいさつや思いやりの心については、家庭と学校と協力して育む必要がある。 | | | | | | | | | | |
| | 道徳教育（人権感覚） | 「人権教育コアカリキュラム」を基盤として、すべての教育活動を通じて、自尊感情や他者への思いやり等の道徳性の育成に努めている。 | | お子さまは、自分のことと他人のことを大切にしている。 | | 自分のことと他人のことを大切にしている。 | | 4.3 | 4.1 | 4.4 | 4.5 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報モラル教育 | 他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し、情報社会で責任をもって行動できるように指導している。 | | お子さまは、スマートフォンやパソコン等を使用するときは、インターネット上のルール・マナーを理解し、守ることができている。 | | スマートフォンやパソコン等を使用するときは、インターネット上のルール・マナーを理解し、守ることができている。 | | 4.1 | 4.4 | 3.7 | 4.3 | A | | 4.3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 健やかな体の育成 | 部活動 | 生徒が自主的に活動し、挑戦する楽しさや喜びを味わうことのできる部活動の運営を心がけている。 | | お子さまは、部活動に意欲的に取り組んでいる。（お子さまが部活動に所属している人のみ） | | 部活動は充実した活動になっている。（部活動に所属している生徒のみ） | | 4.1 | 4.1 | 4.4 | 3.9 | A | A | 部活動については、教職員と保護者の評価指標が昨年度と同じであったが生徒の指標が「4.2」から「3.9」へと下がっている。一部活等の部活動の運営方針や働き方改革、地域移行等、今後大きな変化の波が予想される。生徒の思いを大切にしながら、行政と連携を図りながら改革を進めていく必要がある。 | | | | ・昔は、部活動が子どもたちの成長にとっても大きな影響を与えていた。地域移行等の話が出ているが、学校にとって部活動に代わるものは何であるのかとても気になる。もったいないと感じる。 | | | | | | | | | | |
| | 健康教育 | 正しい生活習慣や食習慣を身に付け、自らの健康管理ができる生徒の育成に努めている。 | | お子さまは、正しい生活習慣や食習慣が身に付いている。 | | 正しい生活習慣や食習慣に気を付けて生活している。 | | 4.1 | 4.1 | 3.9 | 4.2 | A | | 4.1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別支援教育の充実 | 学習指導 | 「ユニバーサルデザイン」の視点に立ち、中町中の共通した授業スタイルによる、すべての生徒にとってわかりやすい授業になるように心がけている | | お子さまへの、学校の授業はわかりやすく工夫されていると思うように心がけている | | 授業は工夫されているとわかりやすい。 | | 4.1 | 4.4 | 3.9 | 4.1 | A | A | 「ユニバーサルデザイン」の視点に立った授業づくりの取組を継続していく。 | | | | ・誰もがわかりやすく学べる「ユニバーサルデザイン」の視点に立った授業研究を引き続き取り組んでほしい。 | | | | | | | | | | |
| 生徒指導の充実 | 生徒指導（規範意識・態度の育成） | 学校や社会でのきまりやマナーについて、全職員が共通理解のもとで、生徒の規範意識の向上に努めている。 | | 学校は、社会のきまりやマナーなどを適切に指導している。 | | 社会のきまりやマナーなどを守って生活している。 | | 4.3 | 4.2 | 4.3 | 4.5 | A | A | ○教職員の意識としては昨年度の指標と同等であった。生徒の意識としては、少しづつではあるが昨年度の数値を上回る結果となった。今後も「規範意識」の向上を目指すとともに、共感的内面理解を心がけ、人権感覚を育み、全ての生徒にとって安全・安心できる学校づくりをすすめていく。 ○いじめを許さない学校づくりを来年度も継続して行う。 | | | | ・いじめのない学校づくりはとても大切である。いじめのとりえ方が昔と違うことはよく理解した。学校と家庭が連携して育てていく事はとても大切だと思う。校則についても合併を見据えて3中学校が連携していくことが必要だと感じる。 | | | | | | | | | | |
| | 生徒指導（共感的内面理解） | 教育相談等を通じて、一人一人の生徒の内面を共感的に理解し、信頼関係に基づいた指導に努めている。 | | 学校は、お子さまの悩みなどを理解し、相談のにつけてくれる。 | | 先生は、悩みや困ったことなどを理解し、丁寧な指導をしている。 | | 4.1 | 4.4 | 4.0 | 3.9 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | いじめ対策 | 「いじめの見落とし0」、「初期対応がすべて」という意識を持って未然防止に努めるとともに、早期発見に取り組む、保護者と連携をとりながら適切な指導を行っている。 | | 学校は「いじめを許さない」という姿勢で早期発見に努めるとともに、保護者と連携をとりながら適切な指導を行っている。 | | | | 4.2 | 4.4 | 4.0 | | A | | 4.2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒の社会的自立に向けた取組 | 特別活動 | 特別活動を、生徒会等を中心に生徒一人一人が主体的に取り組めるように計画・実践している。 | | お子さまは、学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。 | | 学校行事や係の活動などに意欲的に取り組んでいる。 | | 4.3 | 4.3 | 4.2 | 4.4 | A | A | ○今年度は、コロナ禍にもかかわらず3年ぶりに1週間の日程でトライやる・ウィークを実施することができた。生徒の指標も昨年度の「3.6」から「4.1」へと大きく上昇した。2年生に限らず、全ての学年において豊かな体験活動を通した教育をすすめることができるよう学校運営をしていきたい。 ○進路指導については生徒の指標は「3.7」と昨年度と同じ数値であった。卒業後の進路について、生徒が具体的な自分の将来像をイメージすることができるよう、キャリア教育の充実を図っていきたい。 | | | | ・キャリア教育について、やりたいこと（目標）を見つけることはとても大切なことだと思う。今年度は、トライやる・ウィークがコロナ禍前と同様に実施できてとても良かった。仕事について地域で頑張る先輩の姿をふるさとキャリア教育等で学ぶことはとても意義のあることだと思う。やることがあれば協力していきたい。 | | | | | | | | | | |
| | キャリア教育 | 「トライやる・ウィーク」をはじめとする体験活動等を通じて、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てるキャリア教育の充実に努めている。 | | お子さまは、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考え、夢や目標の実現に向けて努力している。 | | 働くことの大切さを理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している。 | | 4.0 | 4.5 | 3.5 | 4.1 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 進路指導 | 子どもの将来を見通した長期的視点に立った上で、学年に応じた系統性のある進路指導を行っている。 | | 学校は、学年に応じた適切な進路指導を行っている。 | | 卒業後の進路についての目標を考えている。 | | 4.0 | 4.4 | 4.0 | 3.7 | A | | 4.1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 防災・安心安全な環境整備 | 防災教育 | 「消防計画書」に基づいた避難訓練や学習を実施し、防災意識の向上に努めている。 | | お子さまと、災害時の避難方法や避難場所を確認するなど、防災についての話をしている。 | | 災害時の避難方法や避難場所を意識しながら生活している。 | | 3.4 | 4.3 | 3.0 | 2.9 | B | B | 防災教育については、学校での避難訓練や学校よりでの周知から、保護者の指標が「3.0」と低い値であったが昨年度の「2.7」から上昇した。「災害の被害をできるだけ減らす」意識を日々の生活の中で持つことができるよう、引き続き防災教育を推進していく。 | | | | ・災害を体験された方の講演会はとても身につまされる。子どもたちへも機会があればそのような体験談を聞かせてあげたいと思う。防災教育については、家庭でも子どもたちと話をする機会を持つことが必要かも知れない。 | | | | | | | | | | |
| | 施設・設備 | 施設・設備の定期点検と補充を行い、校内の安全を確保するとともに、教育効果を高めていけるような環境の整備に努めている。 | | 学校の施設・設備は、お子さまが学習や部活動に取り組む上で、安全で充実している。 | | 学校の施設・設備は、学習や部活動に取り組む上で、安全で充実している。 | | 4.2 | 4.3 | 4.0 | 4.2 | A | | 3.8 | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域から信頼される開かれた特色ある学校づくり | 保護者・地域との連携 | PTA活動や学校行事・懇談会等を通じて、保護者・地域との連携を深め、学校への教育的支援体制を作り上げている。 | | 学校は、保護者の皆様や地域との連携を通じて、教育活動を進めている。 | | | | 4.1 | 4.1 | 4.1 | | A | A | ○今年度も昨年度と同様、評価指標が高い結果となった。引き続き保護者や地域の方々との繋がりを大切にしながら学校運営を続けていきたい。 ○この3年間は、新型コロナウイルス感染症への対応により、体育祭や文化祭、入学式や卒業式等、様々な学校行事の運営に苦慮してきた。コロナ禍が落ち着きつつある状況で、改善すべき点は改善し、生徒の成長を第一に考えたよりよい学校行事となるよう計画・運営していく。 ○生徒1人一人の思いを大切にして引き続き保護者との連携を密にすることができるよう心がける。 | | | | ・学校通信やホームページを通じて学校の様子を知ることができる。今後も引き続き子どもたちの様子を発信するようにしていきたい。家庭としては、子どもが安心して学校に行ってくれることが何よりも嬉しい。学校では、学習だけではなくラブラを含め様々な人間関係での関わり合いがある。家庭と学校がしっかりと連携を図りながら、子どもたちを育てていくことが大切だと感じる。引き続き、細やかな連絡をお願いしたい。 | | | | | | | | | | |
| | 情報公開 | 学校HPや通信、参観日・オープンスクール等を通じて、保護者・地域への積極的な情報公開・提供に努めている。 | | 学校は、通信や参観日・オープンスクール・ホームページなどを通じて、保護者の皆様へ積極的に教育活動内容を積極的に公開し、わかりやすく伝えている。 | | | | 4.4 | 4.6 | 4.2 | | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 保護者への対応 | 保護者からの相談・要望に対し、誠実な対応を行っている。また、生活指導上の問題点等については、保護者との情報共有を迅速、かつ、適切に行っている。 | | 学校は、保護者の皆様からの相談・要望に対し、誠実かつ適切に対応している。 | | | | 4.5 | 4.6 | 4.3 | | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 学校組織運営 | 「学校経営の基本方針」のもと、組織の一員として、密な情報交換を図りながら、能動的・創造的に教育活動に当たることができている。 | | お子さまは、充実した学校生活を送っている。 | | 充実した学校生活を送っている。 | | 4.3 | 4.4 | 4.3 | 4.2 | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 学校満足度 | | | 中町中学校の教育に満足している。 | | | | 4.2 | | 4.2 | | A | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 研修・研究体制 | 研究・研修体制を確立し、研究授業や職員研修会の充実を図り、各自の資質・能力の向上に努めている。 | | | | | | 4.3 | 4.3 | | | | | 4.3 | | | | | | | | | | | | | | |

全体を通した評価・評定

4.2

4.3

4.0

4.1

A

・今年度も感染症対策をしながら学校運営をすすめていただいた。適切な対応であったと思う。来年度も状況に応じた対応をしていただきたい。